

高等学校第2学年 国語科 学習指導案

期 日 平成27年10月29日(木) 第2校時
場 所 県立鹿本高等学校 2年4組教室
指導者 教諭 富田 枝里

1 題材名

評論4 「『である』ことと『する』こと」 丸山 真男 著 (東京書籍「精選現代文B」)

2 題材について

(1) 題材観

本題材は現代文Bの指導事項ア「文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること」(読むことに関する指導事項)を指導するための教材として扱う。

筆者の丸山真男は、日本政治思想史研究の分野で優れた業績を残した政治学者である。その著書は、戦後の社会を展望する上で広い層に影響を与え、様々な反響を呼んだ。

教科書採録の文章は、1961年にまとめられた『日本の思想』(岩波新書)を出典としている。この本は、1958年に行われた講演会での発表をもとに「毎日新聞」に連載(1959年)されたものを、さらに改稿したものである。各節には小見出しが付いており、『日本の思想』の「あとがき」には「新書一般の体裁にしたがって全体に小見出しをつけた」とある。教科書採録分は、教材化にあたり、小見出しを含めた数か所に修正や削除が施されている。

本題材は、日本の近代化の特質とその問題を論じた文章で、「である」と「する」の二項対立で論理展開が進み、後半、そこに「文化」と「政治」のもう一つの対立軸が交差していくところがおもしろい。

抽象度の高い教材であるため、二項対立の構造及び具体例と筆者の見解・主張との関連に注意して読み進めていくような対比的思考を伴った読みが要求される。

明晰な論理とともに的確で優れた表現に支えられており、文章構成や論理展開、要旨をとらえる力を身に付けさせるのに格好の教材だと言える。

(2) 系統観

第1学年(2月)	第2学年(4月)	第2学年(7月)	第2学年(10月) 本時
国語総合 評論 「ものことば」 C書くこと (1)イ (2)ウ	現代文B 評論 「『身銭』を切るコミュニケーション」 書くことに関する指導事項 (1)エ (2)ウ	現代文B 評論 「日本人の美意識」 読むことに関する指導事項 (1)ウ (2)イ	現代文B 評論 「『である』ことと『する』こと」 読むことに関する指導事項 (1)アオ (2)イ

(3) 生徒観

以下に、本クラスに対するアンケート結果から分かった生徒の意識を記す。

○授業に関して、本クラスの生徒のうち約75%は国語の授業が好きだが、評論の授業が好きな生徒になると約25%に減少することが分かった。ただし、評論の授業がよく分かると答えた生徒は約55%と半数以上になる。

○協働・協調的な学びに関して、本クラスの生徒の90%以上は、友達と話し合いをすることが好きであるとともに、友達の考えを聞いて自分の考えを組み立て直したり、新しい考えを創り出したりすることができると考えていることが分かった。

○評論教材に関して、意識調査の結果は次のとおりである。(一部抜粋)

	調 査 項 目	とても+まあまあ
1	評論を読むとき、主要な論点と従属的な論点とを読み分けている。	55.2%
2	評論を読むとき、要旨を把握して読んでいる。	72.4%
3	評論を読むとき、その文章の題材や材料を読み取っている。	62.0%
4	評論を読むとき、段落の役割や段落相互の関係を読み取っている。	51.7%
5	評論を読むとき、構成や展開の仕方について評価しながら読んでいる。	41.4%

上記の結果から、文章の内容に比べ、論理の展開や文章構成についての意識が低いことが分かる。

(4) 指導観

- 題材全体を通した言語活動として、評論「『である』ことと『する』こと」を読んで、各節の小見出しについて考察することを設定した。小見出しの妥当性について考察させることで、指導事項にある「評価する」力を育む。
- 題材全体を通した学習課題を「筆者が付けた小見出しの妥当性について、自分の考えを述べよう」と設定し、「本文には、どんな小見出しがふさわしいだろうか」という問いを立て、グループで検討させる。この検討過程において、文章の要旨はもちろんのこと、文章構成や論理展開も的確に捉えなければならないという必要性に、生徒自身が気付くことを期待する。
- 小見出し検討の際にグループでの話し合いを取り入れることで、生徒が自分の考えを分かりやすく表現する必然性が生じると考える。さらに、生徒の考えの再確認や広がり、深まりを期待する。また、話し合いを通して「伝え合う力」の向上を図り、良好な人間関係づくりに取り組もうとする意欲や態度を育成する。
- 題材の導入時に、大学入試センター試験を用いて、構成に関する問題の解答をグループで考えさせる。このことにより、文章構成や論理展開を学ぶ必要性を感じさせ、課題意識を高めるとともに、協働・協調的な学びの在り方についても考えさせる。
- 本題材を読み、要旨を的確にとらえることで、生徒自身が生きる現代社会の特質や問題についても考え、社会へのかかわりについて考察することへとつなげる。

【視点1】 学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動	【視点2】 学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	【視点3】 学びを支える 学びのUD化と 効果的なICTの活用
【視点1】 言葉への着目による課題の焦点化 課題解決の学習過程 (単元全体を通した言語活動の充実)	【視点2】 メタ認知を促す振り返りの視点の 提示	【視点3】 学習過程の明示

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

- ・一人一人が学習に見通しと課題意識を持てるように、学習課題や学習過程を提示する。

【合理的配慮】

(省略)

3 題材の目標と評価規準

題材の目標	文章の構成や展開、要旨を的確にとらえ、表現の妥当性について自分の考えを述べる。
関心・意欲・態度	①文章の構成や論理展開、要旨を間違いなく把握し、文章の内容にふさわしい表現が用いられているかどうかを考察しようとしている。
読む能力	①文章の構成や論理展開、要旨を間違いなく把握し、文章の内容にふさわしい表現が用いられているかどうかを考察している。
知識・理解	①語句の意味、用法を的確に理解している。

4 指導・評価の計画 (12 時間取扱い 本時 9 / 13)

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【三つの視点から】	評価の観点(評価方法) B 基準
1	1	○グループで、大学入試センター試験の構成に関する問題に取り組む。 ○グループ・ワークの振り返りを行う。 ○題材の目標を知る。	・大学入試センター試験問題を活用して、文章の構成・展開に目を向けさせる。 【視点2】グループ・ワークを振り返らせるために、「振り返りシート」を記入させる。 ・第2時まで朝読書の時間等を活用して教科書本文を通読させ、初発の感想を書かせる。	関心・意欲・態度①(行動の観察) 文章の構成や論理展開、要旨を間違いなく把握しようとしている。

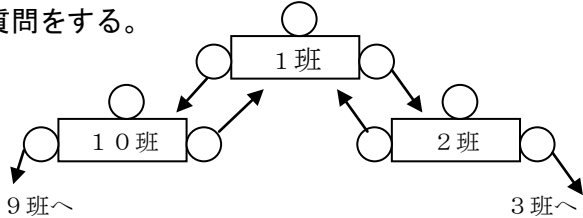
2	2 ～ 8	○第1節から第6節まで，具体例と筆者の意見との関係に注意しながら読む。 ○「である」と「する」と，それぞれの論理と価値について考える。 ○各節の小見出しについて考える。	・筆者の意見の部分と具体例を示した部分との関連に注意させる。 ・具体例について，「である」側なのか「する」側なのかを整理させる。 ・文章全体の論理展開を考えながら読み進めさせる。 ・各節の小見出しについて，該当箇所の抜き出し，小見出しの検討 ・評価，小見出しの設定等，段階的に考えさせる。 【視点1】文章構成や論理展開，要旨をとらえさせるために，小見出しに着目させる。	知識・理解①(行動の観察) 語句の意味，用法を的確に理解している。 読む能力①(行動の観察，記述の分析) 節ごとの要旨を間違いなく把握している。 関心・意欲・態度①(行動の観察) 節ごとの小見出しについて，各節の内容にふさわしい表現が用いられているかどうかを考察しようとしている。
	9 (本時)	○第6節の小見出しについて検討する。	・自分たちならどんな小見出しをつけるか，グループで考えさせる。 ・筆者が付けた小見出し，他グループが付けた小見出しとの比較 ・検討をグループで行わせる。 【視点1】小見出しの比較・検討に向け，課題意識を持たせるために，始めに自分たちで小見出しを作成させる。 【視点2】ワークシートや振り返りシートを用いて本時の学習のメタ認知を促す。 【視点3】グループ活動の流れや留意点に分かり，いつでも見直せるよう，各グループにプリントを配布する。	読む能力①(行動の観察，記述の点検) 第6節の小見出しを検討し，第6節の内容にふさわしい表現が用いられているかどうかを考察している。
	10 ～ 11	○第7節から第9節まで，具体例やたとえについて考え，筆者の主張を読み取る。 ○各節の小見出しについて考え，全ての小見出しの関係性について考察する。	【視点2】これまでの小見出し検討の方法や視点を踏まえさせる。 ・全ての小見出しを並べ，小見出しについて検討する新たな視点はないかを考えさせる。	読む能力①(記述の点検) 全ての小見出しの関係性について考察し，文章の構成や論理展開と結びつけて記述している。
3	12	○文章の要旨を踏まえ，現代社会についての自分の考えを書く。	・現代社会への自己のかかわりを考えさせるために，まず，現代社会の特質や問題点を挙げさせる。 ・本文及び夏目漱石「現代日本の開化」，生徒自身が選んだ新聞記事を参考に，考えさせる。 【視点2】本題材の学習を通して学んだことをもとに，自分の考えを書かせる。	読む能力①(記述の点検) 本文の構成や論理展開，要旨を踏まえ，自分が選択した話題について自分の考えを述べている。

5 本時の学習

(1) 目標

複数の小見出しについて比較・検討し、その妥当性について自分の考えを述べる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 2分	1 本時の課題と学習の流れを確認する。 学習課題	○本時までに取り組んだグループ・ワークを振り返らせ、本時の学習課題の意識付けをする。	
	第6節の小見出しをグループで考え、 他のグループが考えた小見出しや筆者が付けた小見出しと比較してみよう ～どんな小見出しがふさわしいだろうか～		
展開 41分 (33)	2 第6節の小見出しを考える。 (1) 自分なりの考えをもつ。 (2) 3人グループで互いの考えを交流し、小見出しを作成する。 3 他グループと交流し、自分たちが考えた小見出しについての説明や、他グループが考えた小見出しについての情報収集を行う。 4 自分たちが考えた小見出し、他グループが考えた小見出し、筆者が付けた小見出しの比較・検討を行う。 (1) 複数の小見出しを比較・検討する。 【言語活動】（設定の意図） 小見出しを比較・検討させることで、生徒の思考力・判断力・表現力等を育てる。	【視点1】小見出しの比較・検討に向け、課題意識を持たせるために、始めに自分たちで小見出しを作成させる。 【視点3】グループ活動の流れや留意点がわかり、いつでも見直せるよう、各グループにプリントを配布する。 【視点2】ワークシートに、自分の考えた小見出しやグループで考えた小見出し、その小見出しを考えた理由等を記述することで、思考の流れを明確にさせる。 ○3人のうち1人はグループに残り、自分たちが考えた小見出しについて説明する。他の2人はそれぞれ他グループに移動し、情報をメモして戻る。 ○他グループに移動した生徒は、少なくとも1つは質問をする。 	ワークシート 指示書 拡大本文プリント マグネットシート
(8)	(2) グループでの検討内容について、全体で発表する。	評価：読む能力①（行動の観察・記述の点検） B基準 第6節の小見出しを検討し、第6節の内容にふさわしい表現が用いられているかどうかを考察している。 A基準 B基準に加え、考察の際に他の節との関係性にまで言及している。 〈B基準に達していない児童（生徒）への手立て〉 ○考える際の手掛かりとして、これまでにまとめたノート等を用いるなど、個に応じて支援する。	振り返りシート
整理 7分	5 本時の学習を振り返る。 (1) グループでの比較・検討を通して、考えたこと、気付いたことを書く。 6 次時以降の学習について予告する。	○学習課題に関する気付きと、グループ・ワークについての気付きの両方について振り返らせる。 【視点2】振り返りシートを用いて、本時の学習のメタ認知を促す。	